



年末のごあいさつ

一般社団法人電波産業会
事務局長 若尾 正義

本年も残すところわずかとなりました。年末にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。
本年は、東日本大震災及び原発事故等の大災害がありましたが、被災された方々の一日も早い生活の再建と地域の復興を心よりお祈り申し上げます。

当会は、今年4月に、一般社団法人に移行するとともに、会員の皆様方のご協力及び総務省をはじめ関係各機関のご支援、ご協力のお陰を持ちまして、当会の諸事業を順調に遂行することができました。心から厚くお礼申し上げます。

さて、本年の当会の主な活動をご紹介しますと、まず、調査・研究・開発業務では、各分野で積極的に取り組んできましたが、このうち第4世代移動体通信システム(IMT-advanced)の無線インタフェースとして、3GPP技術のLTE-advancedとIEEE技術のWireless MAN-Advancedの2つの方式が、来年1月にスイスのジュネーブにおいて開催される無線通信総会(RA)においてITU-R勧告として承認されることとなりました。

標準規格等の策定及び改定につきましては、規格会議を4回開催しました。標準規格についての著作権の帰属を明文化するため「標準規格に係る著作権の取扱いに関する基本指針」を制定するとともに、「時分割多元接続広帯域デジタルコードレス電話の無線局の無線設備」、「200MHz Band Broadband Wireless Communication Systems between Portable BS and MSs」、「LTE-Advanced Systems」、「WirelessMAN-Advanced Systems」など計7件の標準規格の策定及び31件の改定、並びに技術資料の3件の策定及び19件の改定を行いました。

照会相談業務では、電気通信業務用及び公共業務用の周波数を使用する固定局及び地球局を対象とした回線設計及び混信計算等を実施しておりますが、本年1月から11月末までに904件の処理を行いました。

普及啓発業務につきましては、第22回「電波功績賞」を9団体と4個人に授与・贈呈して表彰するとともに、ARIB機関誌を4回、ARIBニュースを48回発行し、会員に配付しました。また、電波利用講演会を2回、電波利用懇話会を12回開催し、電波の利用に関する情報の提供を行いました。

なお、当会では、地球環境への配慮や事務経費の効率化の観点から、電子的な方法による情報提供を進めて参りましたが、これまでの標準規格などのダウンロード、ARIB ニュースの提供などに加えて、今年は6月に開催された「電波の日記念講演会」の講演内容を電子データの形式で一般に公開しました。

また、総務省をはじめとする関係省庁、放送事業者、企業等と連携し、我が国の地上デジタルテレビジョン放送方式(ISDB-T方式)の国際普及活動に積極的に取り組んで参りましたが、今年は中南米からアジア、アフリカなどの地域への展開を進めました。

以上述べましたように、本年の当会の事業は順調に遂行されましたが、来年も業務の円滑な実施に向けて、役職員一丸となって積極的に推進して参りたいと存じますので、本年と同様、会員の皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、会員の皆様方におかれましては、来年もますますご健勝でご発展されますようお願い申し上げます。年末のごあいさつといたします。

ARIBの動き

第18回アジア太平洋地域宇宙機関会議 (APRSF-18) で発表

アジア太平洋地域での宇宙利用の促進を目的に1993年に設立されたアジア太平洋地域宇宙機関会議の第18回会議(APRSF-18 : Asia-Pacific Regional Space Agency Forum)が、「明日の環境のための地域協力」(A regional collaboration for tomorrow's environment)をテーマに、アジア太平洋を中心に30カ国超の宇宙機関・政府、国際機関から300名超が参加し、12月6日から9日まで、シンガポールで開催されました。全体会議に加え、通信衛星利用、地球観測、宇宙環境利用、宇宙教育普及の各分科会で活発な討議が行われました。

ARIBは、11カ国が参加し23件の発表が行われた通信衛星利用分科会で、WINDS利用実験実施協議会の事務局として、2008年から運用を開始したWINDS衛星を用いた利用実験の実施状況を発表するとともに、日本・タイ・フィリピン間の国際遠隔教育、日本・モンゴル間の遠隔医療・教育、超高速衛星回線に適した通信制御方式、降雨減衰対策の適用方法等の各実験事例の紹介を行いました。

また、本分科会では、東日本大震災での災害救援・復旧への活用事例が紹介され、災害時の衛星通信の重要性が再認識されました。

地球観測分科会との共同セッションでは、衛星活用の船舶自動識別装置(AIS : Automatic Identification System)の活用事例が各国から報告されました。

地球観測分科会では、前回開催国のオーストラリアから提案の気候変動イニシアティブ(Climate R³ : Regional Rediness Review for Key Climate Mission)、農業・食料安全保障、水資源・水害への地球観測衛星の活用が討議されました。また、12月5日に開催の「宇宙技術による環境監視」ワークショップでは、既存森林監視等の実施状況報告に加え、農業用土地資源評価への衛星遠隔探査技術の活用等の実証実験が提案されました。

全体会議(共同議長：シンガポール環境庁 Mr.Joseph Hui, Deputy Chief Executive、文部科学省宇宙開発委員会 池上委員長)においては、各国及び国際機関からのカントリーレポートに加え、アジア太平洋地域の自然災害監視の国際協力プロジェクトであるセンチネル・アジアを初め、各イニシアティブの活動状況が報告されました。また、今年11月に韓国で開催された第3回アジア・オセアニア GNSS(全地球航法衛星システム)地域ワークショップの実施状況が報告されました。その中で、GPS や日本の準天頂衛星「みちびき」を初め、アジア・オセアニア地域で利用可能な複数の測位衛星システムを活用して実施されるマルチ GNSS 実証実験キャンペーンの計画が紹介されました。

次回の会議は、2012年12月11日から14日の日程でマレーシアのクアラルンプールで開催される予定です。



第18回アジア太平洋地域宇宙機関会議（全体会議の様子）



通信衛星利用分科会での
ARIB 発表の様子



展示ブースの様子



開催案内表示

平成 23 年度 VSC 関連国際会議結果報告会を開催

「平成 23 年度 VSC 関連国際会議結果報告会」が、当会が事務局を務める「ITS 情報通信システム推進会議」の運転支援通信システム専門委員会の主催により、12 月 8 日、当会会議室にて開催されました。

VSC(Vehicle Safety Communications)関連国際会議結果報告会は、平成 15 年度から開催されており、今回が第 9 回目となります。津川 VSC-TG 主査(名城大学教授)、小山副主査(ARIB)が司会を務め、総務省の谷口様(移動通信課 課長補佐)にもご出席いただき、ITS 情報通信システム推進会議会員約 90 名が参加し、盛況に行われました。本報告会では、「最近の VSC 関連国際会議の動向」、「第 18 回 ITS 世界会議オーランド 2011」(VSC 関連セッション)、「CAR 2 CAR Forum 2011」及び「主要各国の標準化関連会議の動向」について、9 名の方から報告がありました。

VSC 応用システムの導入、普及シナリオの作成が課題となる中で、欧州では EU が強力に推進している国際標準化と協調システムに関する戦略、開発動向、日欧米協調の状況、ロードマップなどが紹介されました。米国では Connected Vehicles と称する車車・路車間通信を用いた安全運転支援システムのフィールドテストが始まっていること、また IEEE802.11 や IEEE1609 における 5.9GHz DSRC/WAVE(Dedicated Short Range Communication / Wireless Access in Vehicular Environment)に関する標準化の推進状況についての現状が報告されました。

さらに、10 月に米国・オーランドで開かれた ITS 世界会議において、日本が展示・発表した 700MHz 帯運転支援システムや 79GHz 帯高分解能レーダなどが多くの写真を交えて紹介されました。

なお、同会議は 2013 年、東京で開かれることになっており、それに向け VSC に関する活発な開発が期待されています。



平成 23 年度 VSC 関連国際会議結果報告会の様子と津川主査、谷口様（左から）

高度無線通信研究委員会 副委員長 冲中 秀夫
(KDDI 執行役員 技術統括本部 副本部長)



私の ARIB との係りは 1991 年に遡ります。当時は、電波システム開発センター(RCR)でした。2G 携帯電話システム(PDC)の標準規格策定に参加するため、同じ TDMA ベースの米国提案方式との擦り合わせ作業の最終局面でした。

PDC 標準の初版の完成と相前後して、ITU-R での IMT-2000、所謂 3G 携帯電話の標準化議論にも参加し始めました。PDC の実装・商用化との二足の草鞋でした。1997 年頃だったと記憶していますが、日欧米の標準化機関(SDO : Standards Development Organization)で IMT-2000 の具体的な技術設計を始めた頃、三方式を一本化する機運が高まりました。結局、一本化は成し得ませんでした。高度無線通信研究委員会の前身となった IMT-2000 研究委員会が発足したのはこの頃です。

各国 SDO の Partnership という新しい枠組みが構想され、日欧米韓の SDO が集まり、3GPP と 3GPP2 の設立協議が進みました。私は両 PP の設立準備の始めから終わりまで係るという幸運に恵まれました。その後、会社の方式選定に従い、3GPP2 活動に参加、初代 TSG-S 議長や第二代 SC 議長を務めました。OP(Organizational Partner)としての ARIB 代表団の一員でもありました。

今日、携帯電話と BWA のシステム開発は IMT-Advanced 標準化の最終段階に入っており、更なる高度化の声が聞こえてきます。高度無線通信研究委員会は、IMT-Advanced は勿論、その高度化の議論に向けても国内で中心的役割を担うことを期待されています。ITU-T TSAG 前議長で今は 3GPP で活躍している John Visser 氏の明言があります。”Sometimes the best result (consensus in standards) is to make everyone equally unhappy!” 日本産業界だけが”unhappy”とならないために、独創技術を継続的に提案することが必要です。会員の皆様の継続的、積極的な活動を期待します。

編集後記

12 月も半ばを過ぎまして、今回の ARIB ニュースが、2011 年の最後号となりました。

これから冬が本格化しますが、クリスマスや忘年会、新年会などの楽しいイベントも続きます。なかには連日連夜飲み会という方もいると思いますが、飲みすぎ・食べすぎには気をつけましょう。

新しい年が皆様にとってよい年になりますように。

(編集子 : Oz)

ARIB

Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS
発行所

一般社団法人 電波産業会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-1 日土地ビル11F
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<http://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp